

# 発注時のFAX送信をMultiPort FAXで自動化 月間2万4000枚の処理能力でEDIを補完

企業間取引を効率化する手段として利用が拡大しているEDI。しかし取引金額が小さい場合には、コスト的な観点からEDIの導入が適さないケースも少なくない。このような取引先への発注処理を効率化する手段として大きな効果を発揮するのが、FAXサーバによる発注書FAX送信の自動化である。ダイワボウ情報システムでは、MultiPort FAX 3 ProとINSボードを組み合わせることで、1台のサーバで14回線という大規模なFAXサーバを構築。1カ月間で2万4000枚という、膨大な数の発注書FAX送信を自動化することに成功している。



ダイワボウ情報システム株式会社  
システム推進部  
副部長  
東上床 洋二氏



ダイワボウ情報システム株式会社  
システム推進部  
eビジネスシステム課  
課長  
橋本 賢二氏



ダイワボウ情報システム株式会社  
システム推進部  
eビジネスシステム課  
係長  
松前 和宏氏



ダイワボウ情報システム株式会社  
販売推進本部 PS販売推進部  
PS2課  
主任  
神澤 祐介氏



ダイワボウ情報システム株式会社  
販売推進本部 PS販売推進部  
PS3課  
主任  
曾我部 明氏

## EDI化が難しい取引先への発注にFAXを活用 その処理をFAXサーバで自動化

1982年の創業以来パソコンとともに歩み、パソコン販売日本トップクラスを誇るディストリビュータとして国内のパソコン市場をリードしているダイワボウ情報システム(DIS)。2002年8月にFAXサーバ「MultiPort FAX 3 Pro」を導入し、発注業務システムの一部に組み込んでいる。

DISでは、1999年4月から小型コンピュータ業界が標準化したVAN型EDIが導入されており、2002年7月にはWeb型EDIも導入されている。

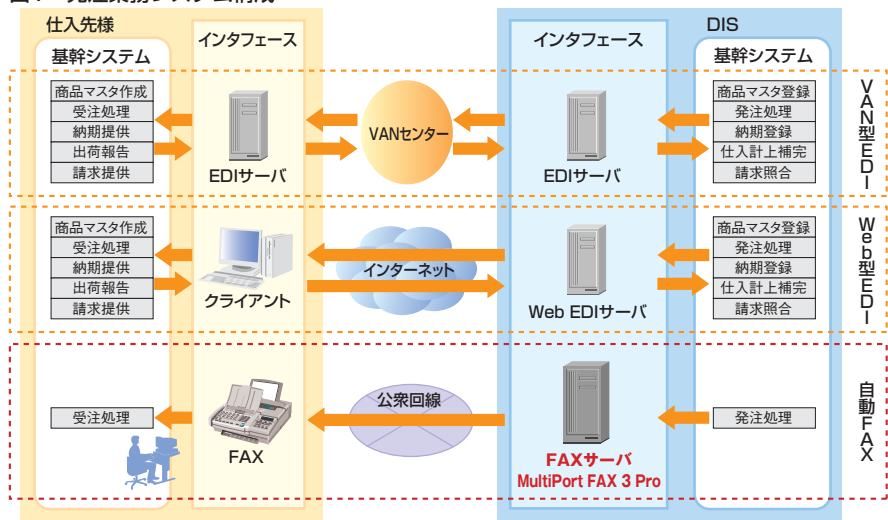
FAXサーバの導入はこれらのEDIを補完するために行われたものであり、VAN型

EDI、Web型EDI、FAXサーバの3本立てで、発注業務の効率化が推進されているのだ。

「VAN型EDIは導入や運用にコストがかかるため、適用するにはそれなりの規模の取引量が必要」と話すのは、システム推進部 副部長の東上床洋二氏。VAN型EDIを導入した後にWeb型EDIを導入したのは、より手軽に利用できる仕組みを提供するためだったと説明する。しかし取引先の中には、Webであっても電子的な取引が行えないところも少なくない。

「EDI化が難しい取引先に対しては、従来のFAXによる発注が欠かせません。これをいかにして効率化するかは極めて重要な課題なのです」(東上床氏)。この課題を

図1 発注業務システム構成



解決するためにFAXサーバの導入を検討していたDISでは、2002年4月にMultiPort FAX 3 Proの導入を決定。社内説明会や仕様作成を経て、同年7月に開発と機器導入に着手する。そしてその翌月には第1次本番稼働を開始。現在では月間2万4000枚に上る発注書が、このシステムで自動送信されるようになっているのである。

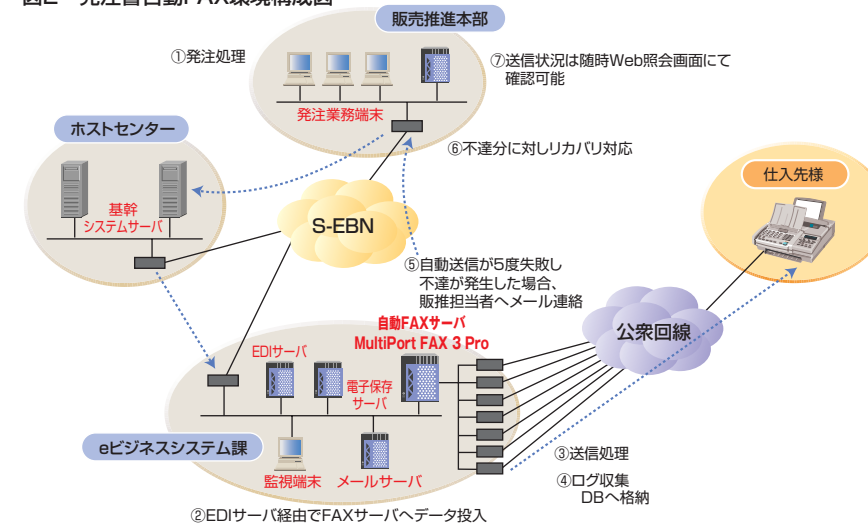
## 製品選択の決め手は高い処理能力 開発の容易さも重要なポイント

それではなぜFAXサーバとしてMultiPort FAX 3 Proが選ばれたのだろうか。その最大の理由について、システム推進部 eビジネスシステム課 課長の橋本賢二氏は「膨大な数のFAX送信に耐えられるため」と説明する。すでに月間4万枚のFAX送信を行っている事例が存在しており、この実績を知ったことが製品選択の決め手になった。なおMultiPort FAX 3 Proは1サーバ当たり最大46回線までサポート可能であり、DISではINSボードでISDN×7回線、アナログ回線換算で14回線分を確保している。これによって月間4万枚のFAX送信にも十分に対応可能。

また、システム推進部 eビジネスシステム課 係長の松前和宏氏は「Visual Basicで利用できるAPIが充実しており、アプリケーション開発やカスタマイズが容易な点も大きなポイント」と指摘する。今回のシステムではEDIと連携してFAX送信を自動化することが求められ、そのためにはEDI側から発注書イメージ(TIFFデータ)を受け取ってFAX送信処理を行わなければならない。しかし、すでに同様のサンプルプログラムが用意されていたため、これをカスタマイズするだけで目的の機能を実現できたという。

そしてもうひとつ忘れてはならないのが、リカバリ機能やログ機能の充実である。これはシステムを安定的に運用する上で欠かせないものだ。DISのシステムでは、送信失敗時に最大5回のリトライを行うようになっている。また詳細ログはMultiPort

図2 発注書自動FAX環境構成図



FAX側でMDBによって管理しているが、記録された内容のうち運用上重要なものは、システム全体の運用管理ログを記録するOracleデータベースへほぼリアルタイムで送られるようになっている。

例えば5回のリトライ後も送信に失敗した場合には、Oracleデータベースにエラー記録が残る。そしてそれと同時に担当者へのエラー通知が、電子メールで送られるようになっているのだ。

## 発注処理の工数を30%削減 今後は見積書FAXでも活用を検討

「FAX送信の自動化で発注処理はかなり楽になりました」と話すのは、販売推進本部 PS販売推進部 PS3課の曾我部明氏。以前は端末から発注書をプリントアウトし、その紙を取りに行きFAX機の場合まで持って行って送信する必要があった。しかし現在では端末の前から動くことなくFAXを送信できる。これによって発注処理の工数を約30%削減できたという。来月1日より実施予定の電子保存がスタートすれば、仕分け作業や、保管作業、また保管場所の節約や紙の削減の効果も大きい。

また送信漏れがなくなったことも大きなメリットだ。「送信に失敗した場合にはすぐ

## USER PROFILE



DAIWABO INFORMATION SYSTEM CO.,LTD.

### ダイワボウ情報システム株式会社

1982年設立。東証・大証1部上場。全国70カ所の営業拠点を展開し、豊富な品揃えを独自の物流機能で即納する体制を確立。独立系パソコンディーラーとして、国内トップクラスの販売実績を誇っている。資本金93億1800万円、従業員数1133名(2003年3月現在)、売上高3119億6200万円(2003年3月期実績)。

に担当者にメール連絡が来るため、安心して他の作業に移れます」というのは、販売推進本部 PS販売推進部 PS3課の曾我部明氏。この安心感も業務効率化に大きな威力を発揮しているのである。

DISでは発注書だけではなく、見積書のやり取りにもFAXが利用されており、その数は月間20万枚に達している。今後はこの見積書のFAX送信も、自動化することが検討されているという。

お問い合わせ先



### エスシー・コムテクス・カンパニー

〒101-8453  
東京都千代田区神田錦町3-11 住友商事錦町ビル  
TEL : 03-5217-5834 FAX : 03-5217-5843  
E-mail : mpf@info.sse.co.jp

住商エレクトロニクス株式会社